
FFTA10A/11 Series

バーコードリーダー 共通取扱説明書

Ver.1.0b

対応機種:

FFTA10A シリーズ (75mm 幅:有線専用タイプ)

FFTA10ABT シリーズ (75mm 幅:Bluetooth タイプ)

FFTA11 シリーズ (65mm 幅:有線専用タイプ)



はじめに

このたびはバーコードリーダー＜FFTA シリーズ＞をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、＜FFTA シリーズ＞の取り扱い方法、接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお取り扱いくださるようお願い致します。また、本書は、お読みになった後も、必要なときにすぐに見られるよう、大切に保存しておいてください。

ご注意

- (1) 本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- (3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い致します。
- (4) 本書に基づいて＜FFTA シリーズ＞を運用した結果の影響については、(3) 項にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださいようお願い致します。

商標について

Bluetooth[®]および Bluetooth ロゴは米国 Bluetooth SIG Inc. の所有する商標で、日栄インテック株式会社は許諾を得て使用しています。Microsoft[®] Windows[®]は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

目次

安全上のご注意	1
梱包内容	2
FFTA10A/FFTA11 の接続手順  	3
キーボードインタフェースの接続手順	3
RS-232 インタフェースの接続手順	3
USB キーボードインタフェースの接続手順	3
FFTA10ABT の接続手順 	7
キーボードインタフェースの接続手順: FFTA10ABTK 	7
キーボードインタフェースの接続手順: FFTA10ABT6 	7
RS-232 インタフェースの接続手順: FFTA10ABTR 	8
RS-232 インタフェースの接続手順: FFTA10ABT9 	8
USB キーボードインタフェースの接続手順: FFTA10ABTU 	9
USB キーボードインタフェースの接続手順: FFTA10ABT4 	9
設定手順	11
設定を中止するには	11
初期設定	12
インタフェースの選択	12
スキャンモードの設定	13
ブザー設定	15
1. ブザー音程	15
2. ブザー音長	15
3. 準備完了ブザーのオン／オフ切替	15
キーボード接続の各種設定 (USB および PS/2 共通)	16
1. キーボード種類 (国別) 設定	16
2. Caps Lock の設定	16
3. 文字送信 (キーストローク) 速度	16
RS-232 接続の各種設定	17
初期設定値	17
1. ボーレート	17
2. データビット	17
3. パリティ	18
4. ハンドシェイク	18
5. ACK/NAK タイムアウトの設定	19
6. ACK/NAK の詳細設定	20
付加文字列の設定	21
プリフィックス／サフィックスの設定	21
データキャリア識別子 (コード ID) の設定	22
1. JIS X0530 形式	22
データキャリア識別子とは…	22
2. カスタム設定	23
ターミネータの設定	25
データ加工機能	26

読み取りバーコードシンボル体系の設定.....	28
すべてのバーコードシンボル体系の読み取りを有効にする	28
すべてのバーコードシンボル体系の読み取りを無効にする	28
バーコードシンボル体系 有効／無効の設定.....	29
JAN / EAN -13.....	29
JAN / EAN -8.....	29
UPC-A.....	29
UPC-E.....	29
コード 39.....	29
コーダバー(NW7).....	29
インタリーブド 2 オブ 5.....	30
インダストリアル 2 オブ 5.....	30
マトリクス 2 オブ 5.....	30
コード 128.....	30
コード 93.....	30
コード 11.....	30
MSI / Plessey.....	31
TELEPEN.....	31
Pharmacode.....	31
RSS ⑪.....	31
JAN / EAN-13 の詳細設定	32
1. 読み取り許可	32
2. JAN / EAN -13 チェックキャラクタ送信	32
JAN / EAN-8の詳細設定.....	32
1. 読み取り許可	32
2. チェックキャラクタ送信	32
UPC-A の詳細設定.....	33
1. 読み取り許可	33
2. UPC-A チェックキャラクタ送信.....	33
UPC-E の詳細設定.....	33
1. 読み取り許可	33
2. チェックキャラクタ送信	33
UPC / JAN / EAN 変換の設定.....	34
1. UPC-E を UPC-A に変換.....	34
2. UPC-A を JAN / EAN-13 に変換.....	34
3. JAN / EAN-8 を JAN / EAN-13 に変換.....	34
4. 図書 2 段バーコード上段を ISBN 10 桁に変換.....	34
JAN / EAN / UPC アドオンの設定	35
1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択.....	35
2. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 許可	35
3. 「491～」で始まる JAN-13 桁のアドオン必須設定.....	35
CODE39 の詳細設定	36
1. 読み取り許可	36
2. ASCII 変換	36
3. スタート／ストップキャラクタ送信.....	36
4. チェックキャラクタ照合	36
5. チェックキャラクタ送信	37
コーダバー(NW7)の詳細設定	38

1. 読み取り許可	38
2. スタート／ストップコード送信	38
3. スタート／ストップコード	38
4. キャラクタ間ギャップのチェック	39
5. チェックキャラクタの照合(モジュラス 16)	39
6. チェックキャラクタの送信	39
7. 読取り桁数範囲の指定	40
インタリーブド 2 オブ 5 (ITF) の詳細設定	41
1. 読み取り許可	41
2. チェックキャラクタ照合	41
3. チェックキャラクタ送信	41
4. 読取り桁数範囲の指定	41
インダストリアル 2 オブ 5 の詳細設定	42
1. 読み取り許可	42
2. チェックキャラクタ照合	42
3. チェックキャラクタ送信	42
4. 読取り桁数範囲の指定	42
マトリクス 2 オブ 5 の詳細設定	43
1. 読み取り許可	43
2. チェックキャラクタ照合	43
3. チェックキャラクタ送信	43
4. 読取り桁数範囲の指定	43
コード 128 (EAN/UCC-128 を含む) の詳細設定	44
1. 読み取り許可	44
2. <FNC1>置き換え設定	44
保守メニュー	45
1. ファームウェアのバージョン確認	45
FFTA10ABT 固有のメニュー 	47
電源の入れかた	47
充電方法と充電時間	47
ブザーと状態表示 LED	48
オートパワーオフ時間の設定	49
ワイヤレス関連ブザー音のオン／オフ	50
即時パワーオフ	50
充電時の通信 	51
Bluetoothペアリングのクリア	52
RS232 ケーブル ピン配列表	53
ASCII キャラクタ配列表 (00hex～7Fhex)	53
特殊キー配列表 (81hex～B0hex) (キーボードウェッジのみ)	54
サンプルバーコード	55
16進設定バーコード	58

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。

 警告	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

記号の意味：

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを示しています。

⊘記号は、禁止（してはいけないこと）であることを示しています。

●記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

 警告	
重要：システム設計者へ ◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。	
◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。 ➢ 煙がでている場合、変なにおいや音がしている場合 ➢ 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合 ➢ 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合	
◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。 事故や故障の原因になります。	
◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。 火災や感電、故障の原因になります。	
◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落したり、水などの液体をこぼしたりしないでください。 火災や感電、故障の原因になります。	
◆ 濡れた手で、インタフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。 感電の原因となることがあります。	

 注意	
次のようなことは、絶対に行なわないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。 ◆ スキャナ本体(FFTA10ABT シリーズの場合は受信機も含まれます。)やインタフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いものの下敷きにならないようにしてください。 ◆ スキャナ本体をたたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。 ◆ 不安定な場所に置かないでください。 ◆ インタフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。	

梱包内容

製品がお手元に届きましたら、すぐに開梱して以下のものが揃っているかご確認ください。
もし、不足・破損などがありましたら、ご購入先の販売店または巻末の弊社担当窓口までご連絡ください。

シリーズ共通

◆ 取扱説明書(本書)	1
◆ 保証書	1
◆ ユーザ登録書	1

FFTA10A シリーズ

◆ スキャナ本体(インタフェースケーブル接続済み)	1
---------------------------	---

FFTA10ABTU

◆ スキャナ本体(切替ケーブル接続済み)	1
◆ 受信機(切替ケーブル接続済み)	1
◆ USB インタフェースケーブル:切替タイプ	1

FFTA10ABTK

◆ スキャナ本体(切替ケーブル接続済み)	1
◆ 受信機(切替ケーブル接続済み)	1
◆ PS/2 インタフェースケーブル:切替タイプ	1
◆ AC アダプタ	1

FFTA10ABTR

◆ スキャナ本体(切替ケーブル接続済み)	1
◆ 受信機(切替ケーブル接続済み)	1
◆ RS232 インタフェースケーブル:切替タイプ	1
◆ AC アダプタ	1

FFTA10ABT4

◆ スキャナ本体(充電用ケーブル接続済み)	1
◆ 受信機(USB インタフェースケーブル接続済み)	1
◆ AC アダプタ	1

FFTA10ABT6

◆ スキャナ本体(充電用ケーブル接続済み)	1
◆ 受信機(PS/2 インタフェースケーブル接続済み)	1
◆ AC アダプタ	1

FFTA10ABT9

◆ スキャナ本体(充電用ケーブル接続済み)	1
◆ 受信機(RS232 インタフェースケーブル接続済み)	1
◆ AC アダプタ	2

FFTA11 シリーズ

◆ スキャナ本体(インタフェースケーブル接続済み)	1
---------------------------	---

ここでは、有線式スキャナの接続手順を説明します。

キーボードインタフェースの接続手順

- (1) スキャナのケーブルが、PCに正しく接続できるか確認します。
- (2) PCの電源を切ります。
- (3) キーボードをPCから取り外します。(デスクトップ PC の場合)
- (4) キーボードをスキャナのケーブルの分岐している部分に取り付けます。(デスクトップ PC の場合)
- (5) スキャナのケーブルをPCに接続します。
- (6) PCの電源を入れます。
- (7) スキャナのブザーが鳴れば、準備完了です。

※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。

※ ノートブック PC で利用する場合は、「インタフェースの選択」でノートブック接続に設定します。

- (8) 読取テスト:

文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

※ ノートブック PC によっては、「ノートブック接続」に設定した後、一旦 PC の電源を切って電源を入れ直さないと、バーコードの読取りができない場合があります。

RS-232 インタフェースの接続手順

- (1) スキャナのケーブルが、使用するホスト装置の RS-232 ポートに正しく接続できるか確認します。
- (2) ケーブルをホスト装置の RS-232 コネクタに接続します。
- (3) スキャナに電源が供給されているか確認してください。

※ 一般に、PC の COM ポートからは電源供給されません。PC の COM ポートに接続して使用する場合は、別途、オプションの AC アダプタをお買い求めください。

- (4) 電源が供給され、スキャナのブザーが鳴れば、準備完了です。

※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

USB キーボードインタフェースの接続手順

- (1) ドライバのインストール

製品 を初めて PC に接続する際、「USB ヒューマン インターフェイス デバイス」ドライバのインストールが必要になります。ここでは、Windows98SE での画面を用いて、インストール手順を説明します。他の OS でも、ダイアログ表示が多少異なりますが、ほぼ同じ手順です。

OS によっては、自動でインストールが進む場合もあります。

a) PC に電源を投入し、Windows を起動します。

b) スキャナの USB コネクタを、PC の USB ポートに接続します。

※**USBハブは使用せず、スキャナを直接PCに接続してください。**USBハブ経由でもほとんどの場合は使用できますが、環境によっては、スキャナの動作が不安定になったり、動作しなかったりする場合があります。弊社では、USBハブの使用はサポート外とさせていただいておりますのでご了承ください。

c) スキャナのブザーが鳴ります。

※ ブザー音がまったく鳴らなかった場合は、一旦 PC の電源を切り、ケーブルの接続を確認してやり直してください。それでも状況が改善されない場合は、巻末に記載の弊社担当窓口までご連絡ください。

※ 設定によっては、2回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。

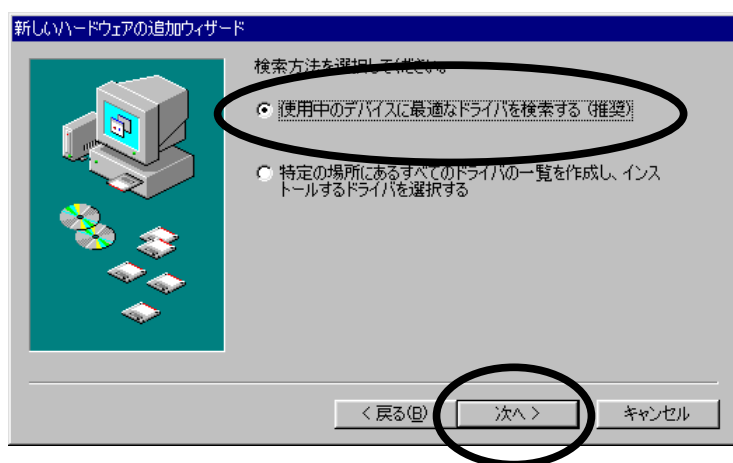
d) PC のディスプレイ画面に「新しいハードウェア」のダイアログが数秒間表示された後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」のダイアログが表示されます。

※ OS によっては自動でインストールが進む場合もあり、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されない場合もあります。その場合は、手順 j) に進み「デバイス マネージャ」を確認してください。

e) 「次へ」ボタンをクリックします。

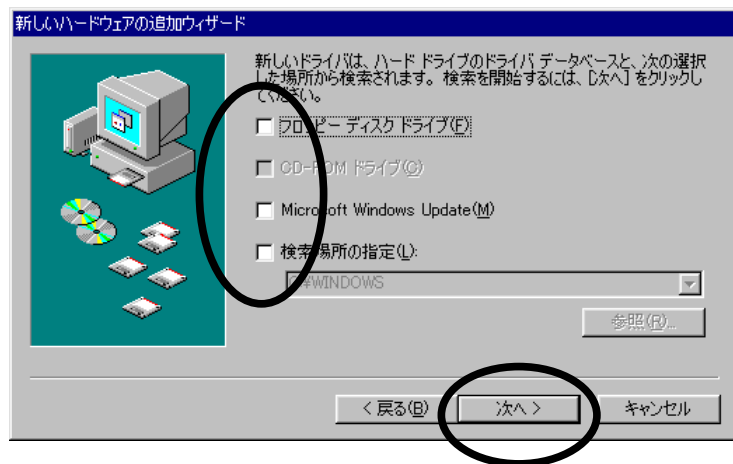


f) 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

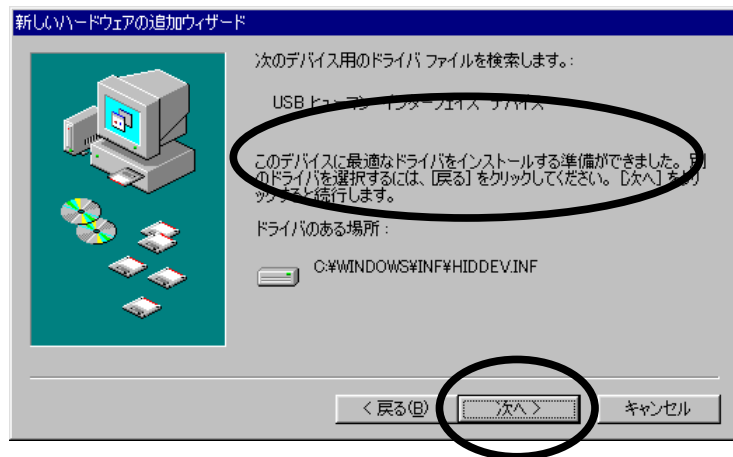


g) チェックマークは付けずに、「次へ」ボタンをクリックします。

このとき、Windows オペレーティングシステムの CD-ROM を要求される場合があります。その場合は画面の指示に従ってください。



h) 「このデバイスに最適なドライバをインストールする準備ができました。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリックします。



i) 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックします。これでインストールは完了です。



なお、このインストール手順の c ～ i は、2回繰り返される場合があります。

j)「デバイス マネージャ」に、次のように表示されているか確認します。

- ・「キーボード」に「HID 互換キーボード」(または同様の表示)
- ・「ヒューマン インターフェイス デバイス」に「USB ヒューマン インターフェイス デバイス」(または同様の表示)

※これらの表示は、スキャナを接続している間だけ表示されます。



(2) 読取テスト:

文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

※手順 1 の j で「デバイス マネージャ」に必要な項目が表示されているにもかかわらずスキャナが動作しない、または動作はするが読み取ったデータが表示されない場合は、スキャナのケーブルを PC から一旦抜いて、再度差し込んでください。

FFTA10ABT の接続手順

ここでは、Bluetooth 無線式スキャナの接続手順を説明します。

キーボードインタフェースの接続手順:FFTA10ABTK

- (1) 付属のインタフェースケーブルが、PCに正しく接続できるか確認します。
- (2) インタフェースケーブルを、受信機に接続します。
- (3) PCの電源を切ります。
- (4) キーボードをPCから取り外します。(デスクトップ PC の場合)
- (5) キーボードを、受信機のケーブルの分岐している部分に取り付けます。(デスクトップ PC の場合)
- (6) 受信機のケーブルをPCに接続します。
- (7) 付属の AC アダプタを、受信機のケーブルに接続します。数秒して、受信機のインディケータ LED が、緑点滅を始めます。
- (8) スキャナのトリガーボタンを長押しして、スキャナの電源を入れます。ブザーが 1 回鳴って、スキャナ背面のインディケータ LED が緑点滅を始めます。
※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
※ スキャナの電源を入れたとき、ブザーが高音で「ピーッ、ピーッ、……」と間隔を空けて 5 回鳴った後、「ピロロロッ」と 4 音のメロディが鳴って電源が切れる場合は、電池残量不足です。ケーブルスタイル(有線モード)で充電を行なってください。
- (9) 数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。
- (10) ノートブック PC で利用する場合は、「インタフェースの選択」でノートブック接続に設定します。
- (11) これで、スキャナの準備は完了です。
- (12) PCの電源を入れます。
- (13) 読取テスト:
文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。
この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

キーボードインタフェースの接続手順:FFTA10ABT6

- (1) 受信機のケーブルが、PCに正しく接続できるか確認します。
- (2) PCの電源を切ります。
- (3) キーボードをPCから取り外します。(デスクトップ PC の場合)
- (4) キーボードを、受信機のケーブルの分岐している部分に取り付けます。(デスクトップ PC の場合)
- (5) 受信機のケーブルをPCに接続し、PCの電源を入れます。数秒して、受信機のインディケータ LED が、緑点滅を始めます。
- (6) スキャナのトリガーボタンを長押しして、スキャナの電源を入れます。ブザーが 1 回鳴って、スキャナ背面のインディケータ LED が緑点滅を始めます。
※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
※ スキャナの電源を入れたとき、ブザーが高音で「ピーッ、ピーッ、……」と間隔を空けて 5 回鳴った後、「ピロロロッ」と 4 音のメロディが鳴って電源が切れる場合は、電池残量不足です。スキャナに AC アダプタを接続して充電を行なってください。
- (7) 数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。

- (8) ノートブック PC で利用する場合は、「インタフェースの選択」でノートブック接続に設定し、PC の電源を一旦切って再度電源を入れます。数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。
- (9) これで、スキャナの準備は完了です。
- (10) 読取テスト:
文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。
この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

RS-232 インタフェースの接続手順:FFTA10ABTR



- (1) 付属のインタフェースケーブルが、使用するホスト装置の RS-232 ポートに正しく接続できるか確認します。
 - (2) ホスト機器の取扱説明書に従って、必要ならばホスト機器の電源を切ります。
 - (3) インタフェースケーブルを、受信機に接続します。
 - (4) 受信機のケーブルをホスト装置の RS-232 コネクタに接続します。
 - (5) 付属の AC アダプタを、受信機のケーブルに接続します。数秒して、受信機のインディケータ LED が、緑点滅を始めます。
 - (6) 手順2でホスト機器の電源を切っていた場合は、電源を入れます。
 - (7) スキャナのトリガーボタンを長押しして、スキャナの電源を入れます。ブザーが 1 回鳴って、スキャナ背面のインディケータ LED が緑点滅を始めます。
- ※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
- ※ スキャナの電源を入れたとき、ブザーが高音で「ピーッ、ピーッ、……」と間隔を空けて 5 回鳴った後、「ピロロロッ」と 4 音のメロディが鳴って電源が切れる場合は、電池残量不足です。ケーブルスタイル(有線モード)で充電を行なってください。
- (8) 数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。これで、スキャナの準備は完了です。この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

RS-232 インタフェースの接続手順:FFTA10ABT9



- (1) 受信機のケーブルが、使用するホスト装置の RS-232 ポートに正しく接続できるか確認します。
 - (2) ホスト機器の取扱説明書に従って、必要ならばホスト機器の電源を切ります。
 - (3) 受信機のケーブルをホスト装置の RS-232 コネクタに接続します。
 - (4) 付属の AC アダプタを、受信機のケーブルに接続します。数秒して、受信機のインディケータ LED が、緑点滅を始めます。
 - (5) 手順2でホスト機器の電源を切っていた場合は、電源を入れます。
 - (6) スキャナのトリガーボタンを長押しして、スキャナの電源を入れます。ブザーが 1 回鳴って、スキャナ背面のインディケータ LED が緑点滅を始めます。
- ※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
- ※ スキャナの電源を入れたとき、ブザーが高音で「ピーッ、ピーッ、……」と間隔を空けて 5 回鳴った後、「ピロロロッ」と 4 音のメロディが鳴って電源が切れる場合は、電池残量不足です。スキャナに AC アダプタを接続して充電を行なってください。
- (7) 数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。これで、スキャナの準備は完了です。この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

USB キーボードインタフェースの接続手順:FFTA10ABTU



- (1) 付属のインタフェースケーブルが、PCに正しく接続できるか確認します。
- (2) インタフェースケーブルを、受信機に接続します。
- (3) 受信機のケーブルをPCに接続します。数秒して、受信機のインディケータ LED が、緑点滅を始めます。
- (4) 初めて接続する際は、ドライバのインストールが始まります。
※ ドライバのインストール手順については、4～6 ページの「ドライバのインストール:d～j」をご参照ください。
- (5) スキャナのトリガーボタンを長押しして、スキャナの電源を入れます。ブザーが 1 回鳴って、スキャナ背面のインディケータ LED が緑点滅を始めます。
※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
※ スキャナの電源を入れたとき、ブザーが高音で「ピーツ、ピーツ、……」と間隔を空けて 5 回鳴った後、「ピロロロツ」と 4 音のメロディが鳴って電源が切れる場合は、電池残量不足です。ケーブルスタイル(有線モード)で充電を行なってください。
- (6) 数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。
- (7) これで、スキャナの準備は完了です。
- (8) 読取テスト:
文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。
この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

※手順 1 の j で「デバイス マネージャ」に必要な項目が表示されているにもかかわらずスキャナが動作しない、または動作はするが読み取ったデータが表示されない場合は、スキャナのケーブルを PC から一旦抜いて、再度差し込んでください。

USB キーボードインタフェースの接続手順:FFTA10ABT4



- (1) 付属のインタフェースケーブルが、PCに正しく接続できるか確認します。
- (2) 受信機のケーブルをPCに接続します。数秒して、受信機のインディケータ LED が、緑点滅を始めます。
- (3) 初めて接続する際は、ドライバのインストールが始まります。
※ ドライバのインストール手順については、4～6 ページの「ドライバのインストール:d～j」をご参照ください。
- (4) スキャナのトリガーボタンを長押しして、スキャナの電源を入れます。ブザーが 1 回鳴って、スキャナ背面のインディケータ LED が緑点滅を始めます。
※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
※ スキャナの電源を入れたとき、ブザーが高音で「ピーツ、ピーツ、……」と間隔を空けて 5 回鳴った後、「ピロロロツ」と 4 音のメロディが鳴って電源が切れる場合は、電池残量不足です。スキャナに AC アダプタを接続して充電を行なってください。
- (5) 数秒して、スキャナおよび受信機の緑 LED が点滅から点灯に変わります。
- (6) これで、スキャナの準備は完了です。
- (7) 読取テスト:
文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。



カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。
この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

※手順 1 の j で「デバイス マネージャ」に必要な項目が表示されているにもかかわらずスキャナが動作しない、または動作はするが読み取ったデータが表示されない場合は、スキャナのケーブルを PC から一旦抜いて、再度差し込んでください。

設定手順

- (1) 変更したいパラメータの記載されているページを開きます。
- (2) ページ左上の「開始」バーコードを読み取ります。ブザーが「プピピ、ピーッ」と4音のメロディで鳴り、設定モードに入ったことを知らせます。
- (3) 変更したいパラメータの設定バーコードを読み取ります。ブザーが「プププ」と3回鳴り、設定バーコードを読み取ったことを知らせます。(パラメータによって、ブザーの鳴り方、メロディは異なります。)
※ 設定バーコードを読み取ったら、すぐにスキャナをバーコード上から離してください。バーコード上に گذاしたままにしていると、同じ設定バーコードを2回以上連続で読み取って、意図しないパラメータ設定となる場合があります。
- (4) 必要な設定が終わったら、ページ右上の「終了」バーコードを読み取ります。ブザーが「ピププ、ピーッ」と4音のメロディで鳴り、設定が終了したことを知らせます。
- (5) 複数のパラメータを変更する場合は、1～4を同様に繰り返します。

※ 設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。

※ パラメータによっては、複数の設定バーコードを順番に読み取って設定するものがあります。順番を間違えると、「プププッ」と短いブザーが4回鳴ります。

設定例: インタリーブド 2 オブ 5 (ITF) の読み取りを許可する場合:

- (1) 12ページを開きます。
- (2) ページ左上の「開始」バーコードを読み取ります。
- (3) 「読み取り許可」バーコードを読み取ります。
- (4) ページ右上の「終了」バーコードを読み取ります。

設定を中止するには

※この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読み取りは必要ありません。

目的のメニューバーコードを直接読み取りしてください。



設定中止

設定を途中で終了する場合に読み取ります。



強制リセット

設定中にLEDが点灯するが、バーコードを読み取らない状態になってしまったときは、この設定バーコードを読み取ってください。

初期設定

設定を初期設定に戻します。

※ この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読み取りは必要ありません。

※ 出荷時に『初期設定』および『インタフェースの選択』をしてありますので、通常はそのままお使いいただけます。

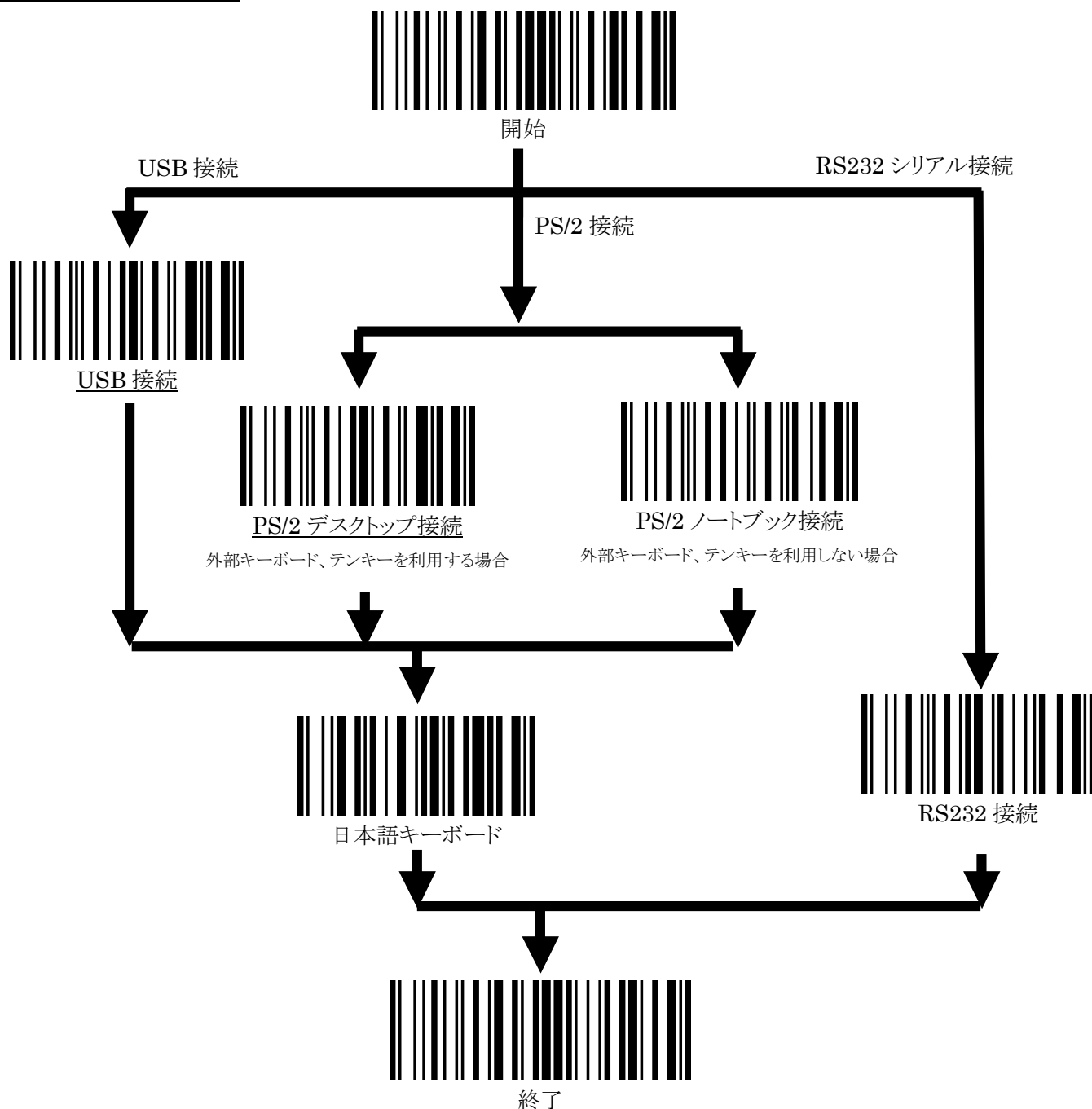
※ 『初期設定』を行なった際は、必ず、次項『インタフェースの選択』も行なってください。

※ 設定バーコードで、下線のついている項目が、出荷時設定を行なったときに設定される項目です。



初期設定

インタフェースの選択





開始

スキャンモードの設定

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」バーコードに続いて目的のメニューバーコードを読み取りすれば設定完了となります。

※スキャンモードの変更は、設定完了後にトリガーを押すと有効になります。



トリガーon/off

トリガーを押している間、LED が点灯し、読み取りを行ないます。
トリガーを離すと LED が消灯します。



トリガーon/読み取り成功 off

トリガーを押すと LED が点灯し、読み取りを行ないます。
読み取りに成功すると LED が消灯します。
(トリガーを押してすぐ離した場合でも、3 秒間は LED が点灯して読み取りを行ないます。)



連続 on/トリガーoff

トリガーを押すと LED が点灯したままになり、連続読み取りが可能になります。
もう一度トリガーを押すと、LED が消灯します。



連続 on/常時点灯

LED が常時点灯します。連続読み取りが可能です。
(設定完了後、一度トリガーを押すと常時点灯になります。)



トリガーon/連続読み取り/
再トリガーまたは 30 秒 off

トリガーを押すと LED が点灯し、読み取りを行ないます。
読み取りに成功しても LED は消灯せず、連続で読み取りが可能です。もう一度トリガーを押すか、30 秒間何も読み取らなかった場合、LED は消灯します。
(トリガーを押してすぐ離した場合でも、30 秒間は LED が点灯して読み取りを行ないます。)



トリガーon/連続読み取り/
再トリガーまたは 120 秒 off

トリガーを押すと LED が点灯し、読み取りを行ないます。
読み取りに成功しても LED は消灯せず、連続で読み取りが可能です。もう一度トリガーを押すか、120 秒間何も読み取らなかった場合、LED は消灯します。
(トリガーを押してすぐ離した場合でも、120 秒間は LED が点灯して読み取りを行ないます。)



開始

(スキャンモードの設定: 続き)

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

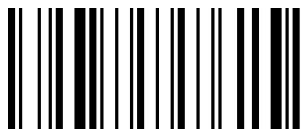
「開始」バーコードに続いて目的のメニューバーコードを読み取りすれば設定完了となります。

※スキャンモードの変更は、設定完了後にトリガーを押すと有効になります。



点滅モード

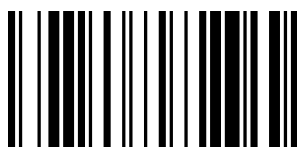
トリガーを押すと LED が点灯したままになり、連続読み取りが可能になります。60 秒間何も読み取らなかった場合、LED は点滅モードに移行します。点滅中もバーコードの読み取りは可能です。一度読取りに成功すると、点灯モードに復帰します。点灯または点滅中にトリガーを押すと、LED が消灯します。



点滅間隔の設定

『点滅モード』の際の点滅間隔を設定できます。
点灯時間および消灯時間をそれぞれ 16 進 2 桁で指定します。
設定可能範囲は、0.3 秒 (03h) ～ 25.5 秒 (FFh) です。
例) 点灯: 1 秒 (0Ah) / 消灯: 0.6 秒 (06h) にする場合…

『開始』→『点滅間隔の設定』→『0』→『A』→『0』→『6』



連続読み取り/省電力モード



※このモードは、FFTA10ABT では使用できません。
電源 ON で LED が高速点滅 (点灯: 0.2 ミリ秒 / 消灯: 2 ミリ秒) でスキャンを開始します。スキャンした波形の中にバーコードらしき波形があると、通常の連続点灯に移行し読み取りを行ないます。
読み取り成功後、一定時間は常時点灯して連続で読み取りを行ないます。また、トリガーを押している間は連続点灯し、連続読み取りが可能です。

このモードでは、『読み取り成功後に高速点滅へ復帰する時間』を 16 進 2 桁で指定します。

設定可能範囲は、3 秒 (03h) ～ 255 秒 (FFh) です。

初期設定値は 3 秒 (03h) です。

例) 高速点滅への復帰時間を 3 秒 (03h) にする場合…

『開始』→『連続読み取り/省電力モード』→『0』→『3』

※ 3 秒未満の値 (00h～02h) を設定しても無視され、『3 秒』に設定されます。

※ バーコードらしき波形をスキャンして連続点灯に移行した場合でも、3 秒間バーコードの読み取りに成功しなかった (読み取れなかった) 場合は、一旦高速点滅モードへ復帰します。

(バーコードらしき波形をスキャンし続けている場合は、すぐに連続点灯へ再移行します)



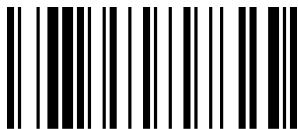
開始



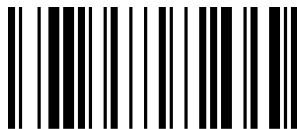
終了

ブザー設定

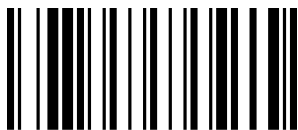
1. ブザー音程



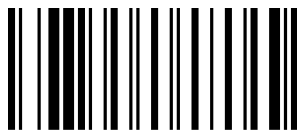
高



中

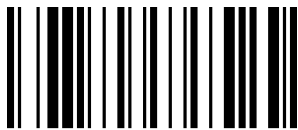


低

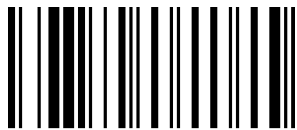


無音

2. ブザー音長



長



短

3. 準備完了ブザーのオン／オフ切替

準備完了ブザー（電源投入時および設定完了時のピー音）を鳴らすかどうかを設定できます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」バーコードに続いて「準備完了ブザーのオン／オフ切替」のメニューバーコードを読み取りすれば設定完了となります。

※設定する毎に、オンとオフとが切り替わります。



準備完了ブザーのオン／オフ切替



開始



終了

キーボード接続の各種設定(USB および PS/2 共通)

1. キーボード種類(国別)設定



106(日本語)キーボード



101(英語)キーボード

※その他の言語のキーボードについては、巻末に記載の弊社担当窓口までお問い合わせください。

2. Caps Lock の設定



Caps Lock ON



Caps Lock OFF

※ON にすると、バーコードデータのアルファベットの大文字を小文字に、小文字を大文字に変換します。
PCの Caps Lock が ON になっていて、データの大文字と小文字が逆になってしまう場合に有効です。

3. 文字送信(キーストローク)速度



最速



速



中



遅

スキャナからのキーボード入力信号を PC 側が受けきれない場合は、送信速度を遅くします。



開始



終了

RS-232 接続の各種設定

初期設定値

＜FFTA シリーズ＞の RS232 シリアルインタフェースにおける通信設定の初期設定値は次の通りです：

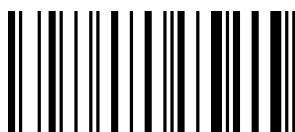
フロー制御： なし（無手順）
ボーレート： 9600
スタートビット： 1（固定）

データビット： 8
パリティ： なし

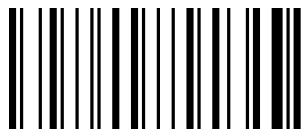
1. ボーレート



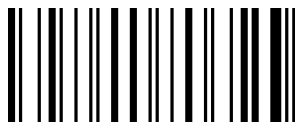
1200



2400



4800



9600



19200



38400

2. データビット



7 ビット



8 ビット



開始



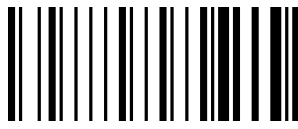
終了

(RS-232 接続の各種設定: 続き)

3. パリティ



奇数 (Odd)



偶数 (Even)

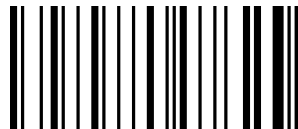


なし (None)

4. ハンドシェイク



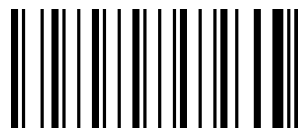
ハードウェア (RTS/CTS)



ソフトウェア (Xon/Xoff)



なし (無手順)



ハードウェア (RTS/CTS)
+ ACK/NAK プロトコル



開始

(RS-232 接続の各種設定: 続き)

5. ACK/NAK タイムアウトの設定

ACK/NAK の応答受信待機時間を設定します。

0.1 秒単位で、00hex (0.1 秒) から FFhex (25.6 秒) の間で設定できます。

初期設定値は 14hex (2.1 秒) です。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「ACK/NAK タイムアウトの設定」バーコードに続いて、設定したい値の hex コード(2 桁)を巻末の「16 進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。



ACK/NAK タイムアウトの設定



開始

(RS-232 接続の各種設定: 続き)

6. ACK/NAK の詳細設定

＜NAK 受信時のデータ再送回数の設定＞

＜タイムアウト時のビープ音鳴動回数の設定＞

この項目では、「NAK 受信時のデータ再送回数」と「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」を設定します。

「NAK 受信時のデータ再送回数」は、1から7の範囲で設定可能です。初期設定値は「3 回」です。

「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」は、2から7の範囲で設定可能です。初期設定値は「5 回」です。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「ACK/NAK の詳細設定」バーコードに続いて、NAK 受信時のデータ再送回数 1 桁 (1～7)、タイムアウト時のビープ音の鳴動回数 1 桁 (2～7) を巻末の「16 進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例) 「NAK 受信時のデータ再送回数」を「5 回」に、「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」を「4回」に設定する場合:

「開始」→「ACK/NAK の詳細設定」→「5」→「4」(自動的に設定完了)



ACK/NAK の詳細設定

※この項目では、「NAK 受信時のデータ再送回数」と「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」とを同時に設定します。個別に設定することはできません。



開始

付加文字列の設定

バーコードデータの前後に任意の文字列を付加することができます。

プリフィックス(データ前付加文字列)、サフィックス(データ後付加文字列)およびターミネータ(終端文字)を設定できます。

データに対するそれぞれの付加位置は次の通りです。

[プリフィックス:0～12文字][コード ID(0～3 文字)][データ:1～64文字][サフィックス:0～12 文字][ターミネータ:0または1文字]

プリフィックス／サフィックスの設定

データの前後に各最大12文字、任意の文字列を付加することができます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「プリフィックスの設定」または「サフィックスの設定」バーコードに続いて、付加したい文字の hex コード(2桁)を12文字分、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

11文字以下に設定する場合は、必要分の hex コードを読み取った時点で「16進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取りすれば設定完了になります。

※プリフィックス／サフィックスの設定を解除するには、「FFhex」に設定します。

※FFTA10ARS で設定可能な文字は、ASCII キャラクタ(00hex～7Fhex)です。

※FFTA10AKB／FFTA10AUSB では、ASCII キャラクタ(00hex～7Fhex)に加えて、特殊キーを 81hex～B0hex で設定可能です。

※各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。



プリフィックスの設定



サフィックスの設定



開始



終了

データキャリア識別子(コード ID)の設定

データの前にデータキャリア識別子(コード ID)を付加することができます。

JIS X0530 形式(3 文字)または任意のキャラクタ(1 文字または 2 文字)を設定することができます。

1. JIS X0530 形式



付加する



付加しない

JIS X0530 形式のアプリケーション識別子を付加します。

※ 「JIS X0530 形式」を「付加する」に設定すると、次項「カスタム設定」の設定は無視され、JIS X0530 形式のアプリケーション識別子が付加されます。

データキャリア識別子とは…

バーコードリーダが、読取ったデータを PC/ホスト機器に送信する際に付加する ID で、シンボル体系の種類、他、チェックキャラクタを検証したかどうか、送信データにはチェックキャラクタが含まれるのか含まれないのか、などの情報を表します。2000 年に ISO/IEC 15424 Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) として制定された国際規格で、日本では 2003 年に JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』として JIS 規格化されました。

例) コード 39 の”C+O+D+E39”というバーコードを読み取り、データキャリア識別子を付加して送信する場合：

1. フル ASCII 処理をしないでデータ送信…]A0C+O+D+E39
2. フル ASCII 処理してデータ送信……………]A4Code39

データキャリア識別子の内容：

]：データキャリア識別子を示すフラグ

A：コード 39 を示すコードキャラクタ

0：『チェックキャラクタ検証もフル ASCII 処理もしない』ことを示す変更子キャラクタ

4：『フル ASCII キャラクタ変換を実行／チェックキャラクタは検証しない』ことを示す変更子キャラクタ

※ 詳しくは、JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』をご参照ください。



開始

2. カスタム設定

コード ID として、任意のキャラクタを 1 文字または 2 文字設定することができます。

※この設定は、前項「JIS X0530 形式」を「付加しない」に設定しているときのみ有効になります。

※カスタム設定を行った後で「JIS X0530 形式」を「付加する」に設定すると、カスタム設定は無視されますが、設定した内容は保持されています。そのため、「JIS X0530 形式」の設定を「付加しない」にすれば、この項で設定したカスタムコード ID が付加されます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「コード種別選択」バーコードに続いて、付加したい文字の hex コード(2桁)を2文字分、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

1文字に設定する場合は、設定したい文字の hex コード(2桁)を読み取った時点で「16進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取りすれば設定完了になります。

※カスタム設定を解除するには、「FFhex」に設定します。

※複数のコードにカスタムコード ID を設定したい場合は、コード種別ごとに設定します。

※FFTA10ARS で設定可能な文字は、ASCII キャラクタ(00hex～7Fhex)です。

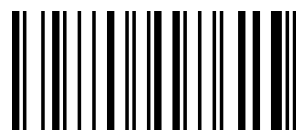
※FFTA10AKB／FFTA10AUSB では、ASCII キャラクタ(00hex～7Fhex)に加えて、特殊キーを 81hex～B0hex で設定可能です。

※各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。

コード種別選択



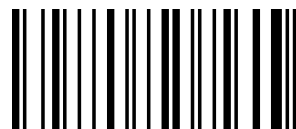
JAN / EAN-13



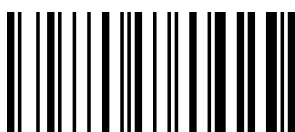
JAN / EAN-8



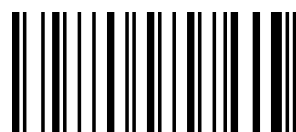
UPC-A



UPC-E



コード 39



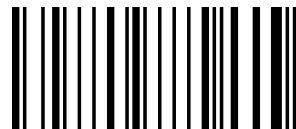
コーダバー (NW7)



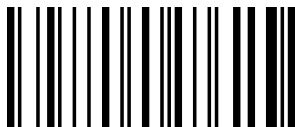
開始



インタリーブド 2 オブ 5



インダストリアル 2 オブ 5



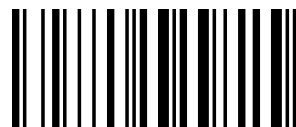
マトリクス 2 オブ 5



コード 128



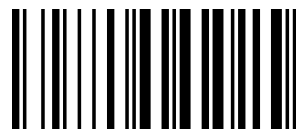
コード 93



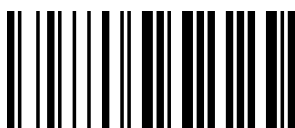
コード 11



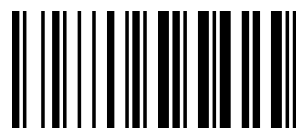
MSI



Plessey



TELEPEN



RSS14

11

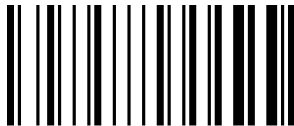


開始

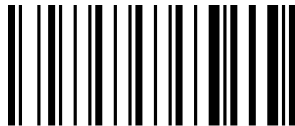


終了

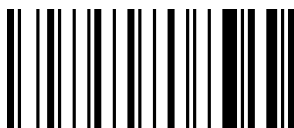
ターミネータの設定



付加しない



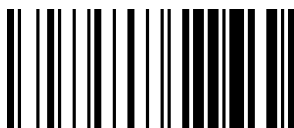
CR (Enter)



Space



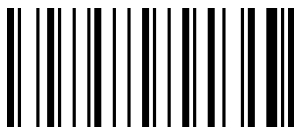
Tab



Esc



Ctrl + C



LF (RS232 のみ)



CR/LF (RS232 のみ)



開始

データ加工機能

読み取ったデータから、特定の部分を抜き出して送信することができます。



データ加工(1):削除から開始



データ加工(2):保持から開始

シンボル体系 16 進コード

JAN / EAN-13	00	インタリーブド 2 オブ 5	07	MSI	0B
JAN / EAN-8	01	インダストリアル 2 オブ 5	06	UK Plessey	0D
UPC-A	10	マトリクス 2 オブ 5	05	TELEPEN	0E
UPC-E	02	コード 128	08	RSS	11
コード 39	03	コード 93	09		
コーダバー(NW7)	04	コード 11	0A	すべてのシンボル体系	FF

- ※ この項目では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
- ※ 「データ加工」で有効なフォーマットは 1 種類だけです。
- ※ 「データ加工(1):削除空開始」「データ加工(2):保持から開始」を別々に同時に設定することはできません。最後に設定した内容が有効となります。
- ※ 同様に、複数のシンボル体系を別々に同時に設定することはできません。最後に設定した内容が有効となります。



開始

設定手順

データの先頭(左端)のキャラクタを送信しない場合:

- (1) 「開始」バーコードを読み取ります。
- (2) 「データ加工(1):削除から開始」バーコードを読み取ります。
- (3) データ加工したいシンボル体系の 16 進コード(2 桁)を、巻末の「16 進設定バーコード」で読み取ります。
- (4) 先頭から何桁を削除するかを、16 進 2 桁で指定(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)します。
- (5) 続く何桁を保持するかを、16 進 2 桁で(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)指定します。
- (6) 必要に応じて、(4)～(5)を繰り返します。
- (7) 削除・保持したい桁数をすべて設定し終わったら、巻末の「16 進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取ります。

例)コード 128 で、3 桁目～7 桁目の 5 キャラクタのみ送信したい場合:

「開始」→「データ加工(1):削除から開始」→「0」→「8」→「0」→「2」→「0」→「5」→「F」→「F」→「決定」

シンボル体系:コード 128
先頭から 2 桁削除
続く 5 桁保持
残りすべて削除

コード 128 の「ABC1234567」というバーコードを読み取った場合、送信データは「C1234」になります。

- (8) 設定内容を破棄するには、次の順番で設定バーコードを読み取ります。
「開始」→「データ加工(1):削除から開始」または「データ加工(2):保持から開始」→「決定」

データの先頭(左端)のキャラクタを送信する場合:

- (1) 「開始」バーコードを読み取ります。
- (2) 「データ加工(2):保持から開始」バーコードを読み取ります。
- (3) データ加工したいシンボル体系の 16 進コード(2 桁)を、巻末の「16 進設定バーコード」で読み取ります。
- (4) 先頭から何桁を保持するかを、16 進 2 桁で指定(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)します。
- (5) 続く何桁を削除するかを、16 進 2 桁で(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)指定します。
- (6) 必要に応じて、(4)～(5)を繰り返します。
- (7) 保持・削除したい桁数をすべて設定し終わったら、巻末の「16 進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取ります。

例)すべてのシンボル体系で、先頭から 5 キャラクタのみ送信したい場合:

「開始」→「データ加工(2):保持から開始」→「F」→「F」→「0」→「5」→「F」→「F」→「決定」

すべてのシンボル体系
先頭から 5 桁保持
残りすべて削除

読み取ったデータが「ABC1234567」だった場合、送信データは「ABC12」になります。

- (8) 設定内容を破棄するには、次の順番で設定バーコードを読み取ります。
「開始」→「データ加工(1):削除から開始」または「データ加工(2):保持から開始」→「決定」



開始



終了

読み取りバーコードシンボル体系の設定

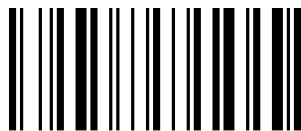
すべてのバーコードシンボル体系の読み取りを有効にする



すべて有効

- ※ 読み取りたいバーコードのシンボル体系が判らないときは、上記「すべて有効」設定バーコードを読み取り、すべてのバーコードシンボル体系の読み取りを有効にします。
- ※ すべて有効に設定すると、予期せぬバーコードを読み取ったり、バーコードに近似した波形となるもの(文字列など)をバーコードと認識する場合があります。読み取りたいバーコードシンボル体系が判明したら、そのシンボル体系のみを有効にすることをお勧めします。

すべてのバーコードシンボル体系の読み取りを無効にする



すべて無効

- ※ 読み取りたいバーコードのシンボル体系が判っていて、想定外のバーコードを誤って読み取るのを避けたい場合は、上記「すべて無効」設定バーコードを読み取ってから、次ページ以降のメニューで、読み取りたいバーコードのシンボル体系を個別に読み取り有効に設定します。



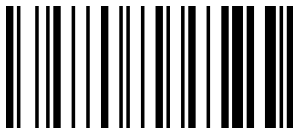
開始



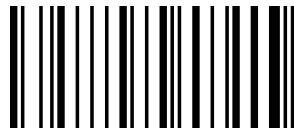
終了

バーコードシンボル体系 有効／無効の設定

JAN / EAN -13



JAN / EAN -13 有効

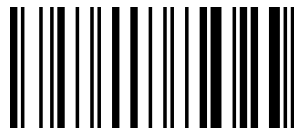


JAN / EAN -13 無効

JAN / EAN -8



JAN / EAN -8 有効

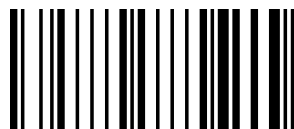


JAN / EAN -8 無効

UPC-A



UPC-A 有効



UPC-A 無効

UPC-E



UPC-E 有効



UPC-E 無効

コード 39



コード 39 有効



コード 39 無効

コーダバー(NW7)



コーダバー (NW7) 有効



コーダバー (NW7) 無効



開始

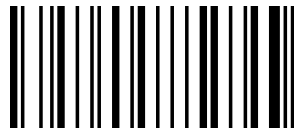


終了

インターリーブド 2 オブ 5



インターリーブド 2 オブ 5 有効

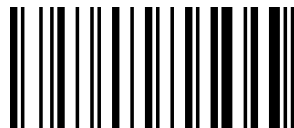


インターリーブド 2 オブ 5 無効

インダストリアル 2 オブ 5



インダストリアル 2 オブ 5 有効



インダストリアル 2 オブ 5 無効

マトリクス 2 オブ 5



マトリクス 2 オブ 5 有効



マトリクス 2 オブ 5 無効

コード 128



コード 128 有効



コード 128 無効

コード 93



コード 93 有効

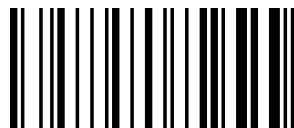


コード 93 無効

コード 11



コード 11 有効



コード 11 無効



開始

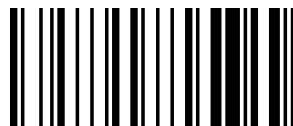


終了

MSI / Plessey



MSI / Plessey 有効



MSI / Plessey 無効

TELEPEN



TELEPEN 有効

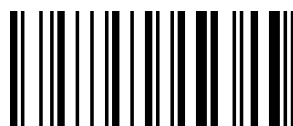


TELEPEN 無効

Pharmacode



Pharmacode 有効



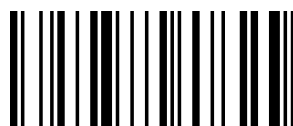
Pharmacode 無効

RSS

11



RSS 有効



RSS 無効

※RSS（省スペースシンボル）には、FFTA11 シリーズのみ対応しています。



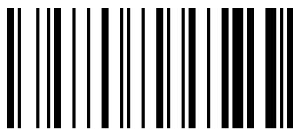
開始



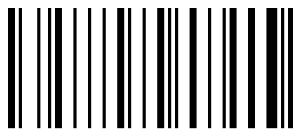
終了

JAN / EAN-13 の詳細設定

1. 読み取り許可

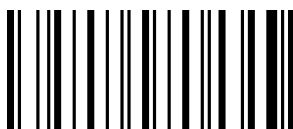


読み取り許可



読み取り禁止

2. JAN / EAN -13 チェックキャラクタ送信



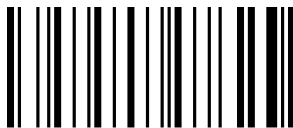
送信する



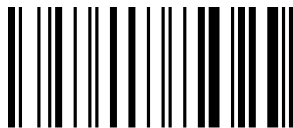
送信しない

JAN / EAN-8 の詳細設定

1. 読み取り許可



読み取り許可

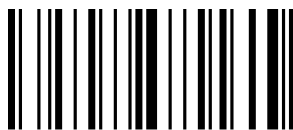


読み取り禁止

2. チェックキャラクタ送信



送信する



送信しない



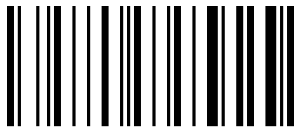
開始



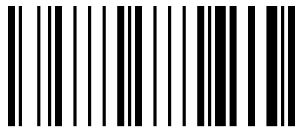
終了

UPC-A の詳細設定

1. 読み取り許可



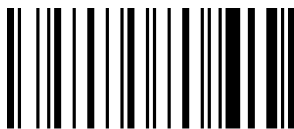
読み取り許可



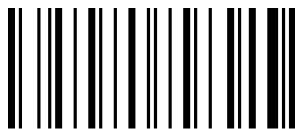
読み取り禁止

※UPC-A を「読み取り禁止」に設定しても、EAN-13 / JAN-13 を「読み取り許可」に設定している場合、UPC-A を EAN-13 とみなして読み取りを行い、13 桁に変換 (左端に0を付加) して送信します。

2. UPC-A チェックキャラクタ送信



送信する



送信しない

UPC-E の詳細設定

1. 読み取り許可



読み取り許可



読み取り禁止

2. チェックキャラクタ送信



送信する



送信しない



開始



終了

UPC / JAN / EAN 変換の設定

1. UPC-E を UPC-A に変換



変換する

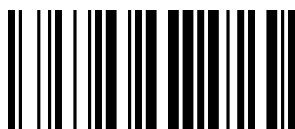


変換しない

2. UPC-A を JAN / EAN-13 に変換

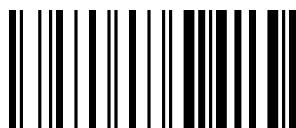


変換する



変換しない

3. JAN / EAN-8 を JAN / EAN-13 に変換



変換する



変換しない

4. 図書 2 段バーコード上段を ISBN 10 桁に変換



変換する



変換しない



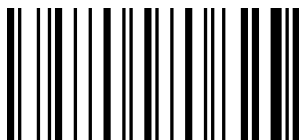
開始



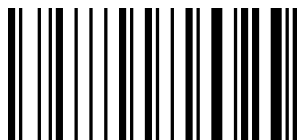
終了

JAN / EAN / UPC アドオンの設定

1. JAN / EAN / UPC アドオン 2桁／5桁 必須選択



必須にする
(アドオンありのみ読取り)



必須にしない

2. JAN / EAN / UPC アドオン 2桁／5桁 許可



アドオン許可
(アドオンも読取り)



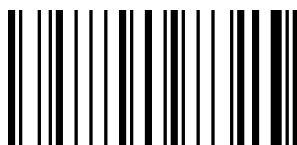
アドオンは無視

※この設定は、「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2桁／5桁 必須選択」が「必須にしない」に設定されているときのみ有効です。「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2桁／5桁 必須選択」が「必須にする」に設定されている場合は、この項目の設定は無視されます。

3. 「491～」で始まる JAN-13 桁のアドオン必須設定



必須にする
(アドオンありのみ読取り)



必須にしない

※この設定は、「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2桁／5桁 必須選択」が「必須にしない」に設定されているときのみ有効です。「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2桁／5桁 必須選択」が「必須にする」に設定されている場合は、この項目の設定は無視されます。



開始



終了

CODE39 の詳細設定

1. 読み取り許可

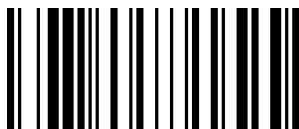


読み取り許可



読み取り禁止

2. ASCII 変換



Full ASCII 変換する



Full ASCII 変換しない

3. スタート／ストップキャラクタ送信



送信する



送信しない

4. チェックキャラクタ照合



照合する



照合しない



開始



終了

5. チェックキャラクタ送信



送信する



送信しない

※「送信しない」は、「4. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。

チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

6. 読取り桁数範囲の指定



CODE39 桁数範囲の指定

読取り桁数を 1～23 桁の範囲で指定することができます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例) 読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 13 桁(0Dhex)に設定する場合:

「開始」→「CODE39 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「D」



開始



終了

コーダバー(NW7)の詳細設定

1. 読み取り許可

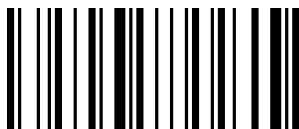


読み取り許可



読み取り禁止

2. スタート/ストップコード送信

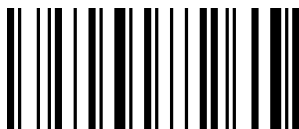


送信する



送信しない

3. スタート/ストップコード



ABCD / ABCD



ABCD / TN*E



ABCD / abcd



ABCD / tn*e

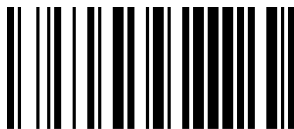


開始

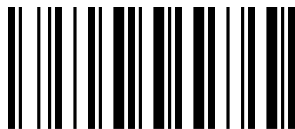


終了

4. キャラクタ間ギャップのチェック



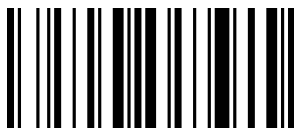
チェックする



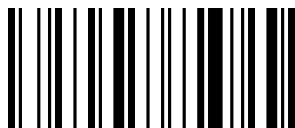
チェックしない

※コーダバー（NW7）で誤読が発生するとき、「チェックする」に設定することで改善される場合があります。

5. チェックキャラクタの照合（モジュラス 16）

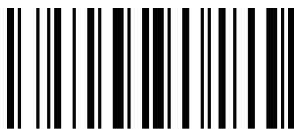


照合する

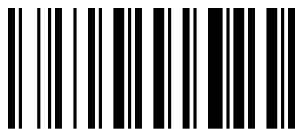


照合しない

6. チェックキャラクタの送信



送信する



送信しない

※「送信しない」は、「5. チェックキャラクタの照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。

チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。



開始

7. 読取り桁数範囲の指定



桁数範囲の指定

読取り桁数を 1～29 桁の範囲で指定することができます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例) 読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 13 桁(0Dhex)に設定する場合：

「開始」→「桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「D」



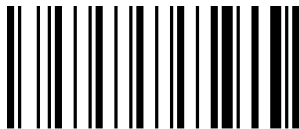
開始



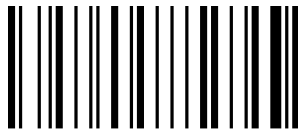
終了

インタリーブ 2 オブ 5 (ITF) の詳細設定

1. 読み取り許可



読み取り許可



読み取り禁止

2. チェックキャラクタ照合



照合する



照合しない

3. チェックキャラクタ送信



送信する



送信しない

※「送信しない」は、「2. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。

チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

4. 読取り桁数範囲の指定



ITF 桁数範囲の指定

読取り桁数を 2～46 桁の範囲で指定することができます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例) 読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 14 桁(0Ehex)に設定する場合:

「開始」→「ITF 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「E」



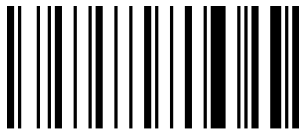
開始



終了

インダストリアル 2 オブ 5 の詳細設定

1. 読み取り許可

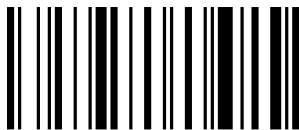


読み取り許可

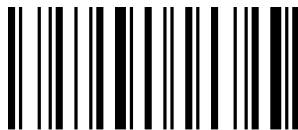


読み取り禁止

2. チェックキャラクタ照合



照合する



照合しない

3. チェックキャラクタ送信



送信する

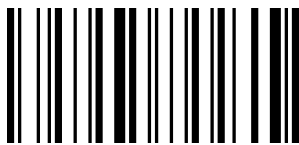


送信しない

※「送信しない」は、「2. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。

チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

4. 読取り桁数範囲の指定



Ind25 桁数範囲の指定

読取り桁数を 1～23 桁の範囲で指定することができます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例) 読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 14 桁(0Ehex)に設定する場合:

「開始」→「Ind25 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「E」



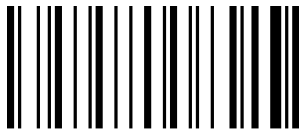
開始



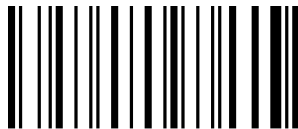
終了

マトリクス 2 オブ 5 の詳細設定

1. 読み取り許可

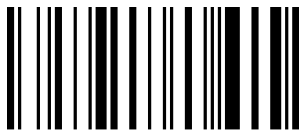


読み取り許可



読み取り禁止

2. チェックキャラクタ照合



照合する



照合しない

3. チェックキャラクタ送信



送信する



送信しない

※「送信しない」は、「2. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。

チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

4. 読取り桁数範囲の指定



M25 桁数範囲の指定

読取り桁数を 1～23 桁の範囲で指定することができます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

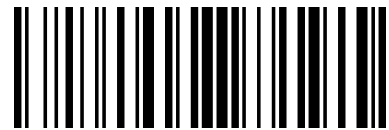
「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例) 読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 14 桁(0Ehex)に設定する場合:

「開始」→「M25 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「E」



開始



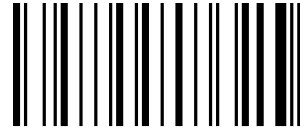
終了

コード 128 (EAN/UCC-128 を含む)の詳細設定

1. 読み取り許可



読み取り許可



読み取り禁止

2. <FNC1>置き換え設定

コード 128 (EAN/UCC-128 を含む) のバーコードデータに<FNC1>が含まれているとき、<FNC1>を任意の ASCII キャラクタに変換して出力することができます。また、何も出力しないこともできます。

※スタートコード直後の<FNC1> (EAN/UCC-128 を示すフラグ) は置き換え対象外となり、常に出力しません。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

「開始」、「<FNC1>置き換え設定」バーコードに続いて、設定したい文字の hex コード (2 桁) を巻末の「16 進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了となります。

※FFTA10ARS で設定可能な文字は、ASCII キャラクタ (00hex～7Fhex) です。

※FFTA10AKB／FFTA10AUSB では、ASCII キャラクタ (00hex～7Fhex) に加えて、特殊キーを 81hex～B0hex で設定可能です。ただし、キーボード入力として不自然な設定にすると、データを正しく送信できない場合があります。

※各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。

※「FFhex」に設定すると、「何も出力しない」に設定されます。

例)

- 1) <FNC1>を<GS>に変換する場合：「開始」→「<FNC1>置き換え設定」→「1」→「D」
- 2) <FNC1>をカンマ(,)に変換する場合：「開始」→「<FNC1>置き換え設定」→「2」→「C」

初期設定値は「FF」(何も出力しない)です。

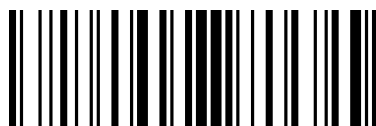


<FNC1>置き換え設定

保守メニュー

1. ファームウェアのバージョン確認

※この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読取りは必要ありません。
目的のメニューバーコードを直接読取りしてください。



バージョン確認

このメニューバーコードを読取ると、ファームウェアのバージョンがデータとしてスキャナから送信されます。

- ※ 本取扱説明書(1.0 版)は、次のファームウェアバージョンに対応しています。
- FFTA10A シリーズ :anly 3.22 以降 および anly8 5627 以降
 - FFTA10ABT シリーズ :anly 3.22a 以降
 - FFTA11 シリーズ :anly6 6329 以降

(編集の都合上、このページは空白です)

FFTA10ABT 固有のメニュー



電源の入れかた

- ・ FFTA10ABT スキャナをワイヤレススタイル(無線モード)をバッテリー駆動にて使用する際は、トリガーボタンを約 2 秒、長押しするとスキャナの電源がオンになります。
- ・ FFTA10ABT スキャナをワイヤレススタイル(無線モード)を AC アダプタ駆動にて使用する際、およびケーブルスタイル(有線モード)で使用する際は、電源は常時オンになります。電源をオフにすることはできません。
- ・ インタフェースケーブルまたは AC アダプタから電源供給していた後にそれらを取り外すと、スキャナの電源は自動でオフになります。ケーブルまたは AC アダプタを取り外した後にワイヤレススタイル(無線モード)で使用する場合は、トリガーボタン長押しして電源を投入してください。
- ・ ワイヤレススタイル(無線モード)を AC アダプタ駆動にて使用していた後に AC アダプタを取り外した場合、受信機は、20 秒間は接続相手が存在するものとして動作しているため、無線接続待ち状態に移行しません。オートパワーオフ/即時パワーオフで電源がオフになる際は、スキャナから受信機へ「電源オフになる」旨を伝える信号を出し、受信機は即座に無線接続待ちになるので、AC アダプタを取り外す前に「即時パワーオフ」バーコードを読み取ることをお勧めします。

充電方法と充電時間

- ・  FFTA10ABTU/K/R では、ケーブルスタイル(有線モード)時に、インタフェースケーブルからの動作電源で充電を行ないます。
- ・  FFTA10ABT4/6/9 では、スキャナ後端の電源ジャックに AC アダプタを接続して充電を行ないます。
- ・ 充電所要時間は、電池残量不足で自動的にパワーオフする状態から満充電まで、無線接続および読取り動作をしないで 12 時間程度です。無線接続または読取り動作をしながら充電を行なう場合は、充電所要時間は長くなります。

ブザーと状態表示 LED

	ブザー(スキャナ)	状態表示 LED(スキャナ)	状態表示 LED(受信機)
電源投入時(※1)	ピー 高音 長 1 回	赤 1 回点滅	——
無線接続相手を探しているとき (無線接続待ち)	——	緑点滅	緑点滅
無線接続確立時	ププッ 低音 短 2 回	緑点灯	緑点灯
接続確立しデータ受信待ち(※2)	——	——	緑点灯
バーコード読み取り、通信 OK	ピッ 高音 短 1 回	赤 1 回点滅	受信中 赤点灯
バーコード読み取ったが通信 NG	ププププッ 低音 短 5 回	赤 5 回点滅	——
バッテリー電圧低下	ピーッ ピーッ … 高音 間隔を空けて長 5 回のあと ピロロロ 4 音メロディ	ブザーに合わせて 赤点滅	スキャナ電源オフに なると緑点滅になる
オートパワーオフ	プッ プッ … 低音 間隔を空けて短 5 回のあと ピロロロ 4 音メロディ	ブザーに合わせて 赤点滅	スキャナ電源オフに なると緑点滅になる
即時パワーオフ	ピロロロ 4 音メロディ	ブザーに合わせて 赤点滅	スキャナ電源オフに なると緑点滅になる

※2 無線接続相手を見失った場合でも、20 秒間は相手が存在するものとして緑点灯しています。20 秒以上経過しても接続相手を見失ったままの場合、緑点滅に戻り、無線接続待ちとなります。



開始



終了

オートパワーオフ時間の設定

ワイヤレススタイルでの使用時、読取り操作も通信も行なわない状態が一定時間続くと、電源を自動でオフにする機能です。オートパワーオフで電源オフになる際は、スキャナから受信機へ「電源オフになる」旨を伝える信号を出し、受信機は即座に無線接続待ちになります。



パワーオフしない



30 秒



1 分



3 分



5 分



10 分



30 分



1 時間



開始



終了

ワイヤレス関連ブザー音のオン／オフ

ワイヤレス機能(接続確立など)に関連するブザー音のオン／オフを切替えるバーコードメニューです。



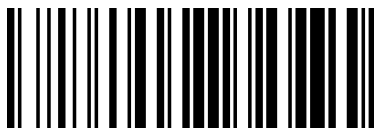
ワイヤレス関連ブザー音のオン／オフ切替え

即時パワーオフ

※この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読取りは必要ありません。
目的のメニューバーコードを直接読取りしてください。

ワイヤレススタイルで使用时、このバーコードメニューを読取ると、『オートパワーオフ時間の設定』にかかわらず、すぐさま電源オフになります。

即時パワーオフで電源オフになる際は、スキャナから受信機へ「電源オフになる」旨を伝える信号を出し、受信機は即座に無線接続待ちになります。



即時パワーオフ



開始



終了

充電時の通信

10ABT
469



有線



無線

インタフェースケーブルから電源供給したときの、スキャナの通信モードを設定します。

※ FFTA10ABT4/6/9 では、「無線」に設定すると、充電しながら無線通信が可能になります。なお、「無線」に設定して使用する場合は、次の点に留意ください。

- ・ AC アダプタを接続した際に一度リセットがかかるため、受信機が一旦、無線接続待ち状態(緑 LED 点滅)になるまで最大で約 20 秒の待ち時間が必要です。
- ・ AC アダプタを取り外すと、「有線」「無線」どちらに設定されていてもスキャナは電源オフになりますので、トリガーボタンを長押しして電源を入れ直してください。なおその際も、受信機が一旦、接続待機状態(緑 LED 点滅)になるまで最大で約 20 秒の待ち時間が必要です。
- ・ 即時パワーオフで電源がオフになる際は、スキャナから受信機へ「電源オフになる」旨を伝える信号を出し、受信機は即座に無線接続待ちになるので、AC アダプタを接続／取り外しする際は、接続／取り外しの前に「即時パワーオフ」バーコードを読み取ることをお勧めします。
- ・ 「無線」に設定した場合、受信機の電源が入っていない状態でスキャナの電源を入れると、スキャナは受信機を探して連続無線通信となり、電力を消費します。未使用時に効率的に充電を行なうために、受信機の電源を入れたままにするか、充電中は「有線」に設定を切替えることをお勧めします。

※ FFTA10ABTU/K/R では、「無線」に設定すると有線モードでの使用ができなくなりますのでご注意ください。

Bluetoothペアリングのクリア

※この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読取りは必要ありません。
目的のメニューバーコードを直接読取りしてください。



Bluetoothペアリングのクリア

このメニューバーコードを読取ると、スキャナ側のBluetoothモジュールのペアリング情報をクリアします。

出荷時にスキャナと受信機とはペアリングされているので、通常使用時にはこのバーコードメニューを読取る必要はありません。出荷時と異なる受信機と接続したいときに使用します。(受信機側もクリアする必要があります)

RS232 ケーブル ピン配列表

電源ジャック	D-Sub 9pin (メス) ピン番号	スキャナ		信号方向 スキャナ⇄ホスト	ホスト側(参考)	
		内容	信号名		信号名	内容
アウター(※1)	1	接地	FG	—	FG	接地
	2	送信データ	SD	→	RD	受信データ
	3	受信データ	RD	←	SD	送信データ
	4	未接続	未接続	—	未接続	未接続
アウター(※1)	5	信号用接地	SG	—	SG	信号用接地
	6	未接続	未接続	—	未接続	未接続
	7	送信可能	CS	←	RS	送信可能
	8	送信要求	RS	→	CS	送信要求
センター(※2)	9	+DC5V 94mA 以上	VCC	—	VCC	(+DC5V 94mA 以上)

※1.

1番ピン、5番ピンおよび電源ジャックのアウターは、内部的に共通です。

※2.

9番ピンと電源ジャックのセンターとは内部的に共通で、排他ではありません。

9番ピンから電源供給する場合は、外部電源ジャックからは電源供給をしないでください。

ASCII キャラクタ配列表 (00hex～7Fhex)

上位桁 下位桁	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	空白	0	@	P	`	p
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	STX	DC2	“	2	B	R	b	r
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v
7	BEL	ETB	‘	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{
C	FF	FS	,	<	L	¥	l	
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	

特殊キー配列表 (81hex～B0hex) (キーボードウェッジのみ)

上位桁 下位桁	8	9	A	B
0		F1	-(テンキー)	左 Shift 押しながら Tab
1	Home	F2	*(テンキー)	
2	End	F3	/ (テンキー)	
3	Page Up	F4	Caps Lock	
4	Page Down	F5	Num Lock	
5	Insert	F6	左 Alt	
6	Delete	F7	左 Ctrl	
7	+(テンキー)	F8	左 Shift	
8	Back Space	F9	右 Alt	
9	Tab	F10	右 Ctrl	
A	Enter	F11	右 Shift	
B	←	Esc	左 Alt Make (※2)	
C	→	F12	左 Alt Break (※2)	
D	Enter (テンキー)	左 Shift 押しながら1キャラクタ (※1)	左 Ctrl Make (※2)	
E	↑	左 Ctrl 押しながら1キャラクタ (※1)	左 Ctrl Break (※2)	
F	↓	左 Alt 押しながら1キャラクタ (※1)	Print Screen	

※1 例) サフィックスを「左 Alt を押しながら“f”(66hex)を押す」に設定する場合

設定:

「開始」→「サフィックスの設定」→「9」→「F」→「6」→「6」→「決定」

サフィックスの設定内容:

“左 Alt”押す→“f”押して離す→“左 Alt”離す

※2 例) サフィックスを「左 Ctrl と左 Alt を押しながら“h”(68hex)を押す」に設定する場合

設定:

「開始」→「サフィックスの設定」→「A」→「D」→「A」→「B」→「6」→「8」→「A」→「C」→「A」→「E」→「決定」

サフィックスの設定内容:

“左 Ctrl”押す→“左 Alt”押す→“h”押して離す→“左 Alt”離す→“左 Ctrl”離す

サンプルバーコード

JAN / EAN-13



JAN / EAN-13 + アドオン 5 桁 (新雑誌コード)



JAN / EAN-8



UPC-A



UPC-E



コード 39 (チェックキャラクタなし)



RSS14 ⑪



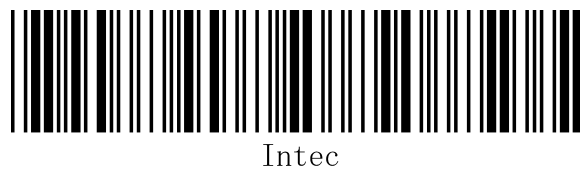
コード 39 (チェックキャラクタ付)



RSS Limited ⑪



コード 39 (フルアスキー)

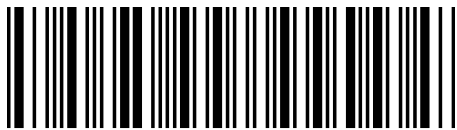


RSS Stacked Omni Directional ⑪



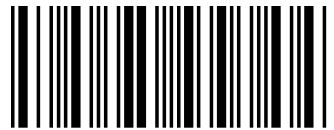
※ トリガーボタンを押したまま、上下になぞるようにして読み取ります。
「上→下」「下→上」どちらも読み取り可能です。

コードバー(チェックキャラクタなし)



a123456789a

コードバー(チェックキャラクタ付)



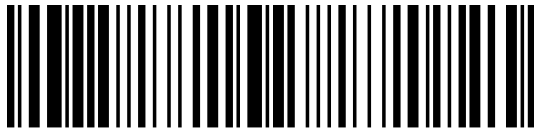
a123451a

コード 128



NICHIEI-INTEC

EAN/UCC-128



(21) 060428 (11) 060525

インタリーブド 2 オブ 5



0123456

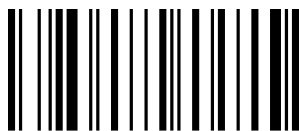
ITF-14



14560151181353

(編集の都合上、このページは空白です)

16進設定バーコード



0



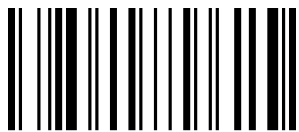
1



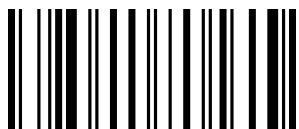
2



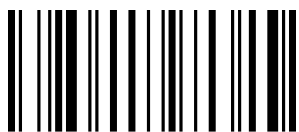
3



4



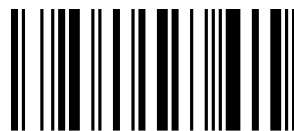
5



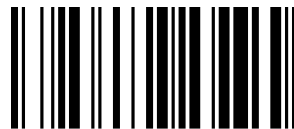
6



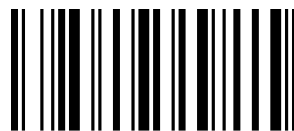
7



8



9



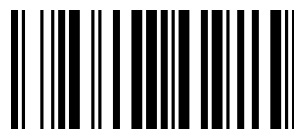
A



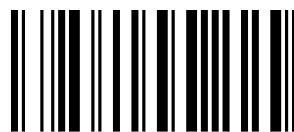
B



C



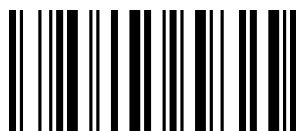
D



E



F



決定



日栄インテック株式会社

情報事業部

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 2-1

日栄インテック神田ビル 3 階

TEL 03-5256-7733

FAX 03-5256-5503

E-Mail info@barcode.ne.jp

URL <http://www.barcode.ne.jp/>

2006 年 7 月作成